記者発表資料

平成 20 年　7 月　２６日
国土交通省　東北地方整備局

河道閉塞（天然ダム）湯ノ倉温泉地区
観測水位状況について【終報】

国土交通省東北地方整備局では、平成２０年岩手・宮城内陸地震により発生した河道閉塞（天然ダム）の監視・観測を実施していますが、このうち「湯ノ倉温泉地区」は２５日１０時に水位が３９５．７ｍとなった後下がりはじめ、本日１８時頃に越流がほぼ止まったことをお知らせします。

なお、今回の越流により部分的な侵食を受けたことから、本日１１時頃、土木研究所及び国土技術政策総合研究所の専門家による現地確認を行いました。調査結果は別紙のとおりです。

現在のところ河道閉塞（天然ダム）の下流地域では浸水等の被害報告はありません。今後、降雨によっては再び水位が上昇する可能性があるので、引き続き、十分警戒してください。

・「湯ノ倉温泉地区」観測水位の状況

７月２６日１８時現在の水位　　標高　３９４．４ｍ

越流する危険のある水位：　　標高　３９４．９ｍ
準備・警戒水位：　　標高　３９４．４ｍ
注意水位：　　標高　３９３．９ｍ

※　部分的な侵食を受け、これらの水位のあり方については今後の調査・測量結果を踏まえ検討予定です。

※　湯ノ倉温泉地区の観測水位（速報値）は、下記ＨＰでご覧いただけます。
http://www2.thr.mlit.go.jp/bumon/b00097/k00916/suii/suii_menu.html

・直轄砂防災害関連緊急事業の実施状況

ポンプ１６台設置済み。排水中

（発表記者会）
宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会
また、東北地方整備局災害現地対策本部（栗原市役所内）においても配布しています。

（問い合わせ先）
東北地方整備局　河川部 流域・水防調整官　　平石　　進　（内 3518）
住所　仙台市青葉区二日町９－１５
電話　０２２－２２５－２１７１

平成 20 年 7 月 26 日

国総研　小嶋

土研　山越

湯ノ倉温泉地区調査レポート

○越流状況について

- 調査時点（11:10）では、幅 2.5m、深さ 30cm、推定流量約 0.75m3/s で越流が続いていた。
- 重機のための工事用通路として盛り土していた箇所が今回の越流で約 1m 程度侵食を受けている。降雨が終了し、水位が既定の越流水位を下回ったにも関わらず越流が止まらないのは、この侵食のためである。現在、この越流箇所では侵食はほとんど止まっており、今後、ポンプ排水等によりさらに水位が低下すれば自然に越流は終了するものと考えられる。

○河道閉塞土砂の侵食状況について

- 越流水路の下流部では深さ、幅とも最大で約 2m 程度侵食されている箇所もあった。
- しかし、越流水路の上流部の侵食は、工事用通路箇所以外ではほとんど進んでいないことから、今後特に強い雨が降らなければ、急激に呑み口の水路床高が下がることによって、急速な侵食が進行するとは考えにくい。
- 現在、ポンプは 16 基稼動していた。排水された水は、閉塞土砂上に排水されているが、まったく地表面を流下することなく、閉塞土砂を構成する巨礫の内部にただちに浸透している。
- ポンプ排水箇所では、巨礫堆積物の表面が沈下していた。伏流水により、巨礫堆積物内で、巨礫間を充填していた細粒成分が流失したためであると考えられる。

○周辺斜面の状況について

- 現場作業員の話では、湛水域左岸側の２つの既存の小規模表層崩壊のうち、上流側の崩壊地において、拡大崩壊が発生したらしい。崩壊土砂量は不明である。2～3 回に分かれて発生したとのことである。最初の崩壊は 7 月 22 日 15:00 ごろに発生した模様。その後さらに続いて、23 日、24 日にも拡大崩壊が進行したとのことである。
- この程度の規模では、崩土の突入に伴って直に河道閉塞部に危険が生じるとは考えにくいが、河道閉塞部上で作業している作業員には危険が及ぶ可能性も否定できないため、作業員が作業している間は、崩壊の前兆現象である落石等によく注意して監視する必要がある。

湯ノ倉温泉地区

越流状況





7月26日11:30ごろ

湯ノ倉温泉地区

越流状況





7月26日11:30ごろ

侵食状況1



7月13日



7月26日12:00ごろ

侵食状況2



7月13日



7月26日

侵食状況３



７月１３日



７月２６日